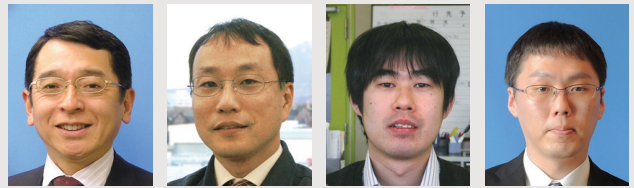


# ETC2.0 サービスの 国際標準化に向けた 取り組み



道路交通研究部 高度道路交通システム研究室

室長 牧野 浩志 主任研究官 鈴木 彰一 研究官 渡部 大輔 交流研究員 水谷 友彰

(キーワード) ETC2.0、賢く使う、国際標準化、海外展開

## 1. はじめに

世界貿易機関 (WTO) は加盟国に対し、国家規格などの個々の規格を国際規格と整合させることを義務付けている。また、これまで市場に大きな影響を与えてきたデファクト標準 (既成事実上の標準) から、デジュール標準 (公的な機関による標準) に移行する動きが活発化しており、国際標準化の重要性が増している。特に、新たに市場に導入される技術は国際標準仕様を早期に確立することにより、初期段階の市場の混乱を防止することが可能とされる。

これまで日本では、他国が制定した国際標準に沿うように製造段階で努力する事により、シェアを獲得してきた。しかし今後は、国際化が進む中で効率的に市場競争を勝ち抜くために、技術開発と標準化提案を並行して推進する事が求められている。以上を踏まえ国総研では、日本のITS技術、特にETC2.0サービスの国際標準化に向けて各関係団体の協力のもと、国際標準化会議であるISO/TC204への参加および提案を行っている。

## 2. 国際標準化に向けた取り組み

ETC2.0サービスは、従来のETCの自動料金収受に加えて、ドライバーへの動的な情報提供や各車両の走行情報を使用した渋滞対策など、今後様々な分野での利用が期待されるサービスである (図-1参照)。このサービスについて、国総研では国際標準案を作成し、国内関係者と連携を図りながら、ISO/TC204における提案・国際標準化作業に取り組んでいる。具体的には、日本の高速道路で導入を検討している経路別優遇サービスは、自動料金収受を扱うWG5に



図-1 ETC2.0サービスの概要

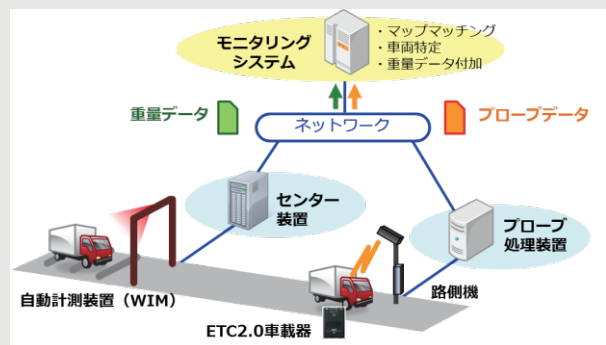


図-2 ETC2.0装着大型車のモニタリングシステム

において、ETC2.0装着大型車に対するプロープデータとWIMを用いた通行モニタリングサービス (図-2参照) は、商用貨物車運行管理を扱うWG7において、それぞれ標準化に向けた議論、手続きが進められている。

## 3. おわりに

日本のITS技術はこれまで標準化が進められてきたところだが、今後も、新たに開始されるETC2.0サービス等の国際標準化に向けて、日本国内で足並みを揃えて取り組んでいく必要があると考えている。

### 【参考】

1) 公益社団法人 自動車技術会, ITSの標準化2015  
[http://www.jsae.or.jp/01info/its/2015\\_bro\\_j.pdf](http://www.jsae.or.jp/01info/its/2015_bro_j.pdf)